



上高地のニホンザル対策

上高地自然保護官事務所 広野 行男

上高地は、中部山岳国立公園の南部に位置し、日本を代表する山岳景観が手軽に見られることから、登山者はもとより国内外から約150万人の利用者が訪れています。毎年4月27日に河童橋のたもとで開催される開山祭で上高地のシーズンは始まります。木々の芽吹きや花の季節には早いものの、5月の連休にはすでに夏場同様のにぎわいとなります。

芽吹く前の上高地を歩いて近頃目につくのは、周辺に生息するニホンザルによる樹皮剥ぎです。食物の不足する冬の間の採餌行動によるもので、梓川河畔のエゾヤナギなど特定の樹種が目立って被害を受けています。かつてはほとんど見られなかった行動の変化が起きており、こうした傾向が更に進めば景観への影響も懸念されるため、被害木のモニタリングを行っています。



間近でサルを観察する利用者(田代池)

一方で、そのニホンザルの群れは、人慣れが急速に進んできています。歩道上に群れては、通行する人などお構いなしに悠然と道端の草や葉を食べる光景

が目につきます。訪れる人々にとっては、野生の動物を間近に観察できるめずらしい機会であり、写真を撮るなどふれあいの対象となっていますが、人間との距離があまりにも近づきすぎると、動物たちが本来持っている警戒心や野生本能を損ねることになってしまいます。また、ふとしたことから餌やりなどが行われてしまえば、更に行動を変化させてしまい、とり返しのつかない状況にもなりかねません。そのような状況をまねかないよう、現在、上高地では、地域の関係者全員が「サル監視員」となり、地元一丸となって追い払い活動を実施しています。環境省としては、餌やり防止のための4か国語表記の注意標識等の設置を始めているところです。



4か国語対応餌やり防止の注意標識

上高地のニホンザルは、寒冷な気候に適応し群れを維持している特異な存在と言われています。彼らのあるがままの姿を守りながら、上高地の変わらない景観を維持していきたいと考えています。

Focus

新3R推進マイスターの委嘱、環境大臣賞の表彰が行われました!

環境省では、1月15日(木)に東京都品川区のゲートシティホールにおいて「容器包装3R推進全国大会—レジ袋削減の取組を全国へ—」を開催しました。この中では、三重大学の朴学長補佐による講演や、全国における先進事例の紹介が行われたほか、平成20年度容器包装3R推進環境大臣賞最優秀賞の表彰が行われました。当事務所管内では最優秀賞の受賞はなかったものの、「地域の連携・協働部門」の優秀賞を三重大学が、また「小売店部門」の奨励賞を名古屋勤労市民生活協同組合がそれぞれ受賞し、2月に中部地方環境事務所から表彰状を伝達しました。

また、全国大会に先立ち行われた3R推進マイスターの第3期委嘱式では、当事務所管内から、渡辺ヒデ子氏(長野県長野市)、笠井雪子氏(長野県千曲市)、広田奈津子氏(愛知県名古屋市)及び広川雄三氏(愛知県春日井市)の4名の方に新たに委嘱を行いました。



「地域の連携・協働部門」優秀賞を受賞した三重大学の皆さん

「地球温暖化防止～ひろがれ! つながれ!ちいきの環～」

シンポジウム&中部4県活動報告会

1月24日(土)に岐阜市のグランヴェール岐山において「地球温暖化防止～ひろがれ!つながれ!ちいきの環～シンポジウム&中部4県活動報告会」を開催しました。

このイベントは、中部エネルギー・温暖化対策推進会議が中心となって、温暖化に関する情報を交換・共有し、地方公共団体をはじめとする中部地域の方々に自主的な取り組みを促進していただくために行ったものです。

当日は省エネ家電の普及啓発を図るためのシンポジウムを行ったほか、「ストップ温暖化大作戦! 私たちの取り組み」では中部4県の11団体が日頃の活動を報告しました。皆さんの熱心な様子に温暖化防止の身近な取り組みがひろがり、つながって大きな環になればと思う1日となりました。

